

令和8年8月27日

部課長 各位

犬山市長 原 欣伸

令和9年度当初予算編成方針について(通知)

1. 予算編成の背景と基本姿勢

本市ではこれまでに、「第6次犬山市総合計画」および「いいね！いぬやま総合戦略」に掲げる将来像の実現を目標に、子育て支援策をはじめ、教育環境の向上、都市基盤整備の推進をはかり、「来るまち犬山」から「住むまち犬山」への転換にスピード感を持って取り組んできた。その歩みを止めることなく、市民の皆さんがずっと犬山に住み続けたいと思っていただける取り組みを、一層推進していかなければならない。

そのため、令和9年度の当初予算編成においては、これまでに積み上げてきた成果と施策を確実に引き継ぎつつ、激変する社会経済情勢に適応し、将来にわたって持続可能な行財政運営を確立するための強固な財政基盤の構築を目指す。

2. 財政状況の見通しと課題

令和8年度の本市財政を見通すと、歳入の根幹である市税収入は近年同様のレベルを堅持する見込みであるものの、歳出面では社会保障費の増大が続いているほか、借入利率の上昇、8月上旬に報告・勧告された国の人事院勧告にも表れているように、人件費の高騰も大きな影響が予想される。

また、令和7年度決算を踏まえた歳入予測と、実施計画での各課からの歳出要求の積み上げにより試算した財政シミュレーションでは、予算査定により要求事業費の8%（約28億円）の削減を行ったとしてもなお、令和9年度で約12億円の財源不足となる結果となった。

令和8年度末見込の財政調整基金の残高を約13億円と見込んでおり、令和9年度は財政調整基金の繰入れにより、収支不足額を補填することができるものの、令和10年度以降は基金が枯渇するという危機的な状況である。

3. 予算編成の基本方針(持続可能な財政運営の推進)

限られた財源の中で市民の安心安全を守り、未来への投資を両立させるためには、これまで以上に「選択と集中」を徹底する必要がある。限られた財源を効率的かつ効果的に活用するとともに、新たな財源確保に取り組むなど、厳しい財政状況下にあっても、行政サー

ビスを維持し、次世代に負担を先送りしない持続可能な行財政運営を確立するため、以下の原則を徹底して予算編成に臨むこととする。

①「歳入に見合った歳出」の徹底とコスト意識の向上

全職員が強い経営感覚とコスト意識を持ち、不用額の徹底的な縮減を図るとともに、業務量に応じた組織体制や人員配置の適正化を進め、人件費も含めた聖域なき歳出削減（スクラップ・アンド・ビルド）を推進する。

② 財政調整基金の健全性の維持

経常収支比率をはじめとする財政力指数等の健全性を意識し、有事の際や将来の大規模事業に備えた適正な基金残高の維持に努めるものとし、当初予算編成後の基金残高が10億円以上となるよう目指す。

③ 既存事業のPDCA サイクルの厳格化

継続事業においては、令和7年度「決算説明書/事業評価シート」における評価結果を踏まえ、各事業の目的や目標に対する成果を客観的に検証し、効果が薄れている事業や役割を終えた施策は、大胆に廃止・統合・再構築すること。

④ 新たな財源確保と行政 DX による効率化

国・県補助金などの特定財源の有効活用やふるさと納税の獲得、民間活力の導入など、自主財源の確保に努めること。特に、デジタル技術を活用した事務の効率化やペーパーレス化を進め、行政コストを抑制しながら市民の利便性を向上させること。

⑤ 予算編成の重点事業

予算編成の重点事業は次に掲げる事業とする。なお、重点事業であっても事業費精査の対象となるので適切な積算に努めること。

《市長マニフェストに資する事業》

1. 子育てで未来への投資
2. 教育で子どもの成長支援
3. みんなで支えあう高齢者と福祉
4. 犬山の潜在力と可能性を活かしてまちづくりにつなぐ
5. みんなに寄り添う市役所
6. 文化、スポーツ、市民活動でまちと人の活力につむぐ
7. 命と暮らしを守る安心安全なまちづくり

《いいね！いぬやま総合戦略 2025-2030 の重点事業》

1. “暮らしたいまち”になるための「12」の重点事業
2. “活躍したいまち”になるための「10」の重点事業
3. “訪れたいまち”になるための「4」の重点事業